

令和2年度 区有施設整備アドバイザー意見聴取結果

1 目黒区民センターの見直しについて

No.	アドバイザー意見	区の考え
1	ワークショップに出席いただく方々には、スローガン、キャッチフレーズ等を出してもらい、そのエッセンスが実現への過程に活かされるようにしてほしい。また、今後の取組の中でそれぞれの意見をどのように反映させたのか、資料にどのように載せたのか等、フィードバックを工夫した方が良い。将来的にはそうした過程が施設への愛着につながっていくと考えられる。	区民の方々に愛着を持っていただける施設になるよう、ご意見の趣旨を踏まえて取り組んでいく。
2	ワークショップは1回ではなく、複数回実施した方が良い。そういう意味では、区民向けに2回実施し、また大学生ワークショップの参加者も区民向けワークショップに参加することは、議論も深まり効果的ではないか。	ご意見の趣旨を踏まえ、今後も多様な住民参加に取り組んでいく。
3	将来を見据えた施設にする必要があると思うが、その時に主に施設を利用していくのは今の若い世代である。そういう意味では、子どもたちからのワクワクするようなアイデアや若い感性を如何に取り込めるかも大切である。	ご意見の趣旨を踏まえ、今後も多様な住民参加を経ながら取組を進めていく。
4	また、将来の協議会や審査会などにおいても、実際に施設を利用する世代となっていく学生や子育て中の方など若い世代の方の参加が必要ではないか。	ご意見を踏まえ検討する。
5	他の自治体では、特別教室の管理を指定管理により行い、教員の施設管理の負担を軽減し、かつ特別教室を地域にも開放しやすくなり、多方面にメリットが生まれている。こうした事例を見ても、建物の計画と同時に管理方法の検討も重要である。	ご意見を踏まえ検討する。
6	都市計画の制約がある中で、かつ財政負担の軽減を図るには、公共施設のあり方を見つめ直さなければいけないのではないか。公共施設という本来の役割を踏まえると、一定時間、一定のスペースを特定の利用者に貸し出す貸室については、数や造りを抜本的に見直し、その分不特定多数の方が使えるスペースを確保した方が公共本来の役割を果たせるのではないか。	ご意見の趣旨を踏まえ、基本構想策定に向けた検討を進めていく。

No.	アドバイザー意見	区の考え
7	敷地全体に低層の建物を建てるのか、部分的に高層の建物を建てるのか等、公園や川とのバランス、敷地内でのメリハリのある活用が良いのではないか。	ご意見の趣旨を踏まえ、基本構想策定に向けた検討を進めていく。
8	コロナ禍を踏まえても、オープンスペースの重要性やリモートワークといった過ごし方、働き方の変化を踏まえると、公園の重要性はますます高まっている。区民センターについても、閉ざされた空間は最小限にし、公園の充実を図ることは地域にとってもメリットが多いのではないか。	ご意見の趣旨を踏まえ、基本構想策定に向けた検討を進めていく。

## 2 学校施設の更新について

No.	アドバイザー意見	区の考え
1	将来の児童数生徒数の減少を見据え、学校が地域コミュニティの中心となり、かつ学校教育に相乗効果が出る複合化を進めていくべきである。	学校施設を更新する際には、積極的に周辺施設との複合化・多機能化を図っていく。なお、複合化・多機能化にあたっては、施設間の親和性や相乗効果などを多角的に検討していく。
2	複合化は、目的があつてこそ検討できるものである。その意味では、学校を地域コミュニティの中心とすることを目指す更新計画は適当ではないか。	地域と学校の連携強化や、地域コミュニティ活動の強化につながるような複合化・多機能化を目指していく。
3	学校と他施設とのつながり、相乗効果が出る複合化でないと意味がなくなってしまう。学校と地域のつながりをどこまで重視するかは自治体の決断であるが、ハコモノ同士を合築するだけの複合化は避けるべきである。	ご意見の趣旨を踏まえ、検討を進めていく。
4	体育館や特別教室の施設管理に民間活力を活用し、教員の施設管理に係る負担を軽減している自治体もある。これにより、特別教室や体育館を地域にも開放しやすくなっているため、今後の設計標準の検討の際に参考にしてはどうか。	ご意見の趣旨を踏まえ、検討を進めていく。
5	I C T技術でオンライン化などが進むと、社会に必要な機能について考え直すことが必要で、そのなかで施設に求められる役割を考えていかなければならない。これまでと同じ機能でただ空間を大きくつくることには疑問がある。	設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討を進めていく。

No.	アドバイザー意見	区の考え
6	コロナ禍を踏まえ、オープンスペースやフレキシブルな空間づくりなど、今後の多様な使われ方に柔軟に対応できるような設計が求められるのではないか。	設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討を進めていく。
7	地域とのつながり、開かれた学校づくりは必要である。一方、複合できる施設などは地域性によるところもあるので、つながりや開かれ方の程度は関係者と十分に調整すべきである。	計画を進めていくに際して、地域とのつながりを大切にしながら、子供たちの安全を確保する方法を模索していく。
8	公民連携の事例として、学校と併設された公共施設の管理を民間に任せている自治体があり、教員の負担軽減に大きく寄与している。複合化にあたっては、建物を計画するのと同時に、管理方法を検討していくことが重要で、学校の負担が増加することなく教育に力を注ぐことのできる仕組みづくりが大切である。	学校を設計していく際には、ご意見の趣旨を踏まえ、現場の意見を聞きながら検討を進めていく。
9	民間活力の活用は、民間としてメリットが出ないと難しい面がある。1校1校での導入よりも、今後一斉に学校更新を進めていく上での発注方法の工夫など、多面的に検討する必要がある。	他自治体の事例を参考にしながら、どのような手法が可能なのか検証していく。
10	学校のプールについては、学校にプールを設置せずに民間のスイミングスクールを活用する自治体や、学校にプールを設置して積極的に地域に開放し、地域力で子どもたちを泳げるようにする自治体もあるなど様々である。更新計画（素案）に記載されている学校プールの共用化は進めるべきと考えるが、地域性を考慮し、地域によりメリハリある考え方を取り入れることも考えられる。	ご意見の趣旨を踏まえ、検討を進めていく。
11	設計標準について、標準的なスペックをおさえながらも、今後の教員の働き方なども踏まえた職員室のづくりなども検討してはどうか。また、教室数についても、想定児童生徒数に応じたものを基本としながら、将来の様々な事情に柔軟に対応できる空間づくりを検討すべきである。	設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討をすすめていく。
12	設計標準は、今後の学校の使われ方も含めた大きな考え方を見据えながら検討していくことが望ましい。	設計標準を作成していく際には、ご意見を踏まえて検討をすすめていく。